

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270101686		
法人名	株式会社のじり苑		
事業所名	グループホームのじり苑		
所在地	〒030-0122 青森県青森市野尻字今田58番地1		
自己評価作成日	平成28年11月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成28年12月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な空間の中で入居者様一人ひとりが自宅にいるように職員と家族のように触れ合える。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

町内会に加入し、避難の一連の流れを確認しながら、近隣の中学生にお手伝いを頂き町内会避難訓練に参加し、地域住民との交流を実践している。又、近隣に短大・幼稚園・コンビニ等がある事で地域との交流を行うことができている。入居者が入浴時間を自由に選ぶことができ、外出も個々の要望に合わせて出かけるなど、個人に合わせた対応や支援が行われている。個別の支援を丁寧に行っていることが入居者一人ひとりの表情や行動、職員の姿勢に現れている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

公益社団法人青森県老人福祉協会

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り前、会議前に理念の唱和を行っている。	二つのユニットどちらにおいても玄関とリビングに理念を掲げており、朝の申し送りや会議の前に唱和し、実践につながるように努めている。朝の申し送りでは、入居者が自主的に参加し一緒に唱和している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事等を通じて他事業所地域の方と挨拶を交わしたり近隣のコンビニでの買い物を通じて日常的に交流できるように心がけている。	入居者と一緒に近所のスーパーに出かけたり、散歩などで近所の人と会うと挨拶を交わしている。町内会に加入し、地域の行事を通して消防団や中学校、婦人会と交流している。町内会長が正月に祈祷に来てくれる。近くの幼稚園とも交流があり近所づきあいをするように努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣のコンビニ、地域住民へ協力をお願いしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度開催し、ご家族様、南包括支援センター、民生委員へ参加して頂き行事や事故報告書、情報交換を行い出された意見などはサービス向上に生かしている。	入居者も参加し二ヶ月に一回行われている。内容は事故報告と情報交換が主である。運営推進会議の内容は職員に周知し業務改善に生かしている。また、毎回家族に参加していただき情報提供を行ったり、意向の確認を行いサービス向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて報告、相談等を行い運営推進会議録を提出し情報公開に努め協力関係を築くように取り組んでいる。	地域包括支援センターに出向いて運営推進会議録を提出しており、一通り読んでいただき質問を受け付けている。コンプライアンスの事などで分からないことがある時は、随時問い合わせを行い、聞くことができる関係作りに努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の業務の中で身体拘束につながらないかを意識し取り組んでいる。夜間は防犯の為に施錠している。	身体拘束廃止に関する指針を用意し、ファイリングして廊下にさげており職員が自由に閲覧できる様にしている。個別のケースで判断が難しい場合は保険者と相談している。やむ終えず拘束を行う場合は書面での同意を得て記録をつけ安全な実施に努めている。	勉強会の場に運営推進会議を活用することで家族への理解も得ること、グループホーム内外の勉強会や研修会を通して職員が拘束に関する正しい知識を得て、グループホーム内でのルール作りができていくことを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	両ユニット、共有スペースへマニュアル本を置き学ぶ場を設けて虐待につながるケアをしてないかについて確認しながら防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	両ユニット、共有スペースへマニュアル本を置き学ぶ機会をもうけている。制度を必要とする方には各関係者と連携を図り支援できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には家族の方に納得してもらえるまで十分な説明を行っており不安なことなどの確認を行い、いつでも相談できる体制であることを伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の請求書と一緒に「お客様の声」という用紙を送付し、ご家族様の意見、要望を確認したり運営推進会議へ参加頂き直接意見を聞ける場を設け運営へ反映させる努力をしている。	面会簿の横に意見箱を設置している。面会に来られた方と積極的に会話をし、意見を言いやすい環境作りをしている。直接家族から希望などについて手紙を頂くことがあり、意見を運営に反映するように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月会議を行い職員の意見や提案を話し合い運営へ反映させている。	会議だと一部の職員しか発言できないため、発言できない職員には雰囲気を感じ取って、個別に声がけして話を聞く様にしている。人事異動などで個人面談は滞っていたが今後は取り組んで行こうと思っている。	今後は個人面談を行っていくということなので、職員それぞれの思いや気持ちなどが反映され、より良い運営につながることを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員との面談の機会を設けたりメール、電話等で不安、要望を確認しながら職員の仕事の成果を正確に評価するように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のケアへの取り組みを確認し不足点について指導し育てる取り組みをしている。法人内外の研修を受ける機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入し集まりへ参加したり近隣の事業所の行事へ参加したり交流を図っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ずご本人様との面会や入院中であつたら聞き取りをしている。本人様、家族様から十分に話を聞き、施設での生活に不安を取り除けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分なアセスメントや生活歴を聞き、家族様のみで話せる環境作り話すことでの共感、傾聴を信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	計画作成担当者を主として関係者や本人の意見意見を尊重し優先すべきサービスを見極め提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	健康状態、心身状況の報告を面会時や月末の請求書に文章を同封し報告、相談を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	最低でも月に一度ご本人様の情報を提供し情報共有に努め本人様の支援の基盤を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に制限はせずいつでも面会、外出などできる。	入居前に利用していた美容室へ職員の支援で行ったり、お盆の時期などはお墓へ行きたいと言う要望があり、家族へ墓地の場所を聞き、墓参りに行ったりしている。そのほか、家族が迎えに来て外出したり、面会・外出はいつでも対応できるように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士がコミュニケーションが図れるように職員が介入している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも相談できるよう支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向に沿った生活ができるようにしている。	事前に意向を確認したいことを家族へ伝え、面会時に聞き取りを行っており、聞き方も工夫している。入居者へは日常的な会話の中から意向を確認し、その上で個々の要望に応える様に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様からの話や本人様からの情報を積極的に聞き反映できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録や申し送りを通じて毎日情報共有し、必要であればノートに記載し職員全員が共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の会議や日々の記録、更新時期には本人様も出来る限り出席をお願いし担当者会議を開催しながら現状に合ったプランの取り組みをしている。	毎回、計画見直しの時期に本人や家族(後見人なども含む)から意見を聞き取り、これまでの計画を評価しながら次回の介護計画を作成している。遠方で担当者会議に参加できない場合は、電話で聞き取りを行い書類は郵送し、来所された時に改めて説明を行っている。ケアプランを申し送りノートに挟み職員に目を通してもらうことで周知している。	アセスメントから計画策定、モニタリングを含めたケアマネジメントに関する一連のプロセスを踏み、書類などを整えて職員に周知することでより生きた計画になることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常のケース記録を言動、行動を細かく分かりやすく記録する事で見直しや更新に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、家族様からの希望に添うよう対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源への取り組みはしていないが安全、安心な暮らしができる様に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携している医療機関を利用し月2回の定期往診をお願いしており相談や不安事がある際にも連絡を密にし関係を築いている。	本人・家族からの希望があればそれまでのかかりつけ医に受診できる様にしている。健康管理などで不安がある時は電話で問い合わせを行い助言を頂くなど連携している。受診の対応は基本的にグループホームで行い、受診結果は毎月の請求書と一緒に書面で報告している。緊急を要するときは電話で連絡し情報の共有に努めている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携している医療機関の看護職員が連絡、相談に都度応じてくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日々、報告、連絡、相談を行い病院関係者と関係づくりをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	常に担当者、担当看護師との連絡を密にしご家族様を含めたカンファレンスを行いご納得いただいた上で支援している。	職員間で情報共有するため、携帯メールの一斉配信や申し送りノートを利用して、ケアの方針や方法などを共有している。家族の想いを受け止められる様にカンファレンスを行い、振り返りをする様にしている。状態が変わって対応が難しい時は、次の事業所へ繋げられる様にサポートを行い、安心できるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は、すぐに対応できるよう連絡網を貼っており定期的な訓練は行えておらず指示のもと対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し、新人職員を率先させ訓練を行っている。避難方法、通報方法を確認し消火器の取り扱いなどを入居者様も一緒に参加し把握している。横内地区の避難訓練へ参加し施設への協力をお願いしている。	業者が防災設備点検や避難訓練の計画を策定し実施している。訓練は日中、火災想定のみ行っており、直近の避難訓練に民生委員に参加のお願いをしたが、都合が合わず参加できていない状況である。災害時の備品(食料、水、発電機などの設備)の貯蓄あり、一週間すこせるように努めている。	夜間想定での訓練も行うことで、災害時に対応できる幅が広がり、記録などに残していくことで職員全体での振り返りにもつながり、緊急時の連絡体制整備など、より一層の災害時の対策につながっていく事を期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉がけや対応に気を配り入居者様が気分を害さないよう心掛けている。	居室は常に扉を閉め、暖簾と名札で部屋が分かる様に工夫している。トイレの声がけをする時はあらかじめトイレと分からない様に声がけを工夫し、人格を尊重する対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自ら選択できるような質問や自己決定できるように傾聴し対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り希望にそえるように対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみ整容ができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや食器の準備、食器洗いを通じ残存機能を引き出しながら行って頂き食事を楽しんでもらえるように対応している。	食器洗いなど一人一人できることに取り組んで頂いている。敷地内に畑があり入居者と一緒に収穫し、調理を楽しんでおり、食事形態も個人に合わせて準備している。地域の方が山菜を採って来てくれて、入居者と一緒に皮を剥くなどの作業を行い食事に関心を持つように努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量と水分量は常に記録している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日、毎食後に口腔ケアを促すが無理維持せず夕食後には必ず行って頂くように支援している。介助が必要な方の口腔内の観察は必ず行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄状況に合わせた支援をしている。表情や行動を観察し介入している。	排泄の状況をパソコンに直接打ち込みし、他者に見られないように配慮している。個別の排泄リズムに合わせて声がけする様にし、排泄用品の改善が見られている。下剤に頼らず排便できる様に、乳製品を多くとるなど食事での改善を目指している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	軽度の運動や散歩をしたり定期的に乳製品を購入し腸の働きを促しながら対応。更に担当医師と相談しながら下剤の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	可能な限り希望に応じた入浴時間を設定してはいるものの曜日は決めてしまっている。	入浴日は決まっている(ユニットで曜日を分けている)が、時間はその人の希望の時間に合わせて入浴している。入浴日以外は足浴を実施しており、拒否が強い時は無理せず別日に設けている。リラックスして頂くため、音楽、入浴剤、会話などを大事にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビング、廊下へソファを置いており、いつでも誰でも休むことができるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容を職員全員で把握し服薬綴りを確認し変更時は職員間で申し送りを行い変化があった場合には担当医へ報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握し役割などを交えて軽作業へ取り組んで頂き気分転換を図りながら支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設内の買い物、ドライブ等の外出機会を出来る限り多くもうけ支援している。	入居者との日常会話から出た行きたい場所に行けるよう支援している。また、商業施設や近隣の観光地などへ積極的に出かけ、出かけ先に家族が近い場合は、家族へ声がけして合流できないか模索している。天気が良い時は日常的に散歩に出かけている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほぼ所持はさせていない。一緒に買い物へ行き支払う際は自ら支払えるように介入、支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話がかけられるようお伝えし、要望があれば支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一日2回の温度・湿度管理を徹底し居心地のいい環境を作っている。共有スペースへは写真、飾りつけ等を工夫し生活感、季節感を感じて頂ける様に工夫している。	季節に応じた飾り付けをし、それに合わせた音楽を流している。湿度や温度にも注意して過ごしやすい環境を作るよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	両ユニットを行き来できいつでも迎えられよう椅子やソファを設置して居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたもの、布団や枕を活用し居心地のいい居室作りをしている。	自室が分かる様に個別の暖簾を下げるなど工夫している。個人の好みに合わせて古い写真やぬいぐるみ、化粧品など自室に持ち込んで配置している。個人が愛用している食器なども持ち込んでもらっている。入居時に本人や家族に伺いながら部屋のレイアウトを行なうよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、トイレ、廊下等に手すりを設置し可能な限り自立した生活が送れるよう環境整備、見守りを行っている。		